

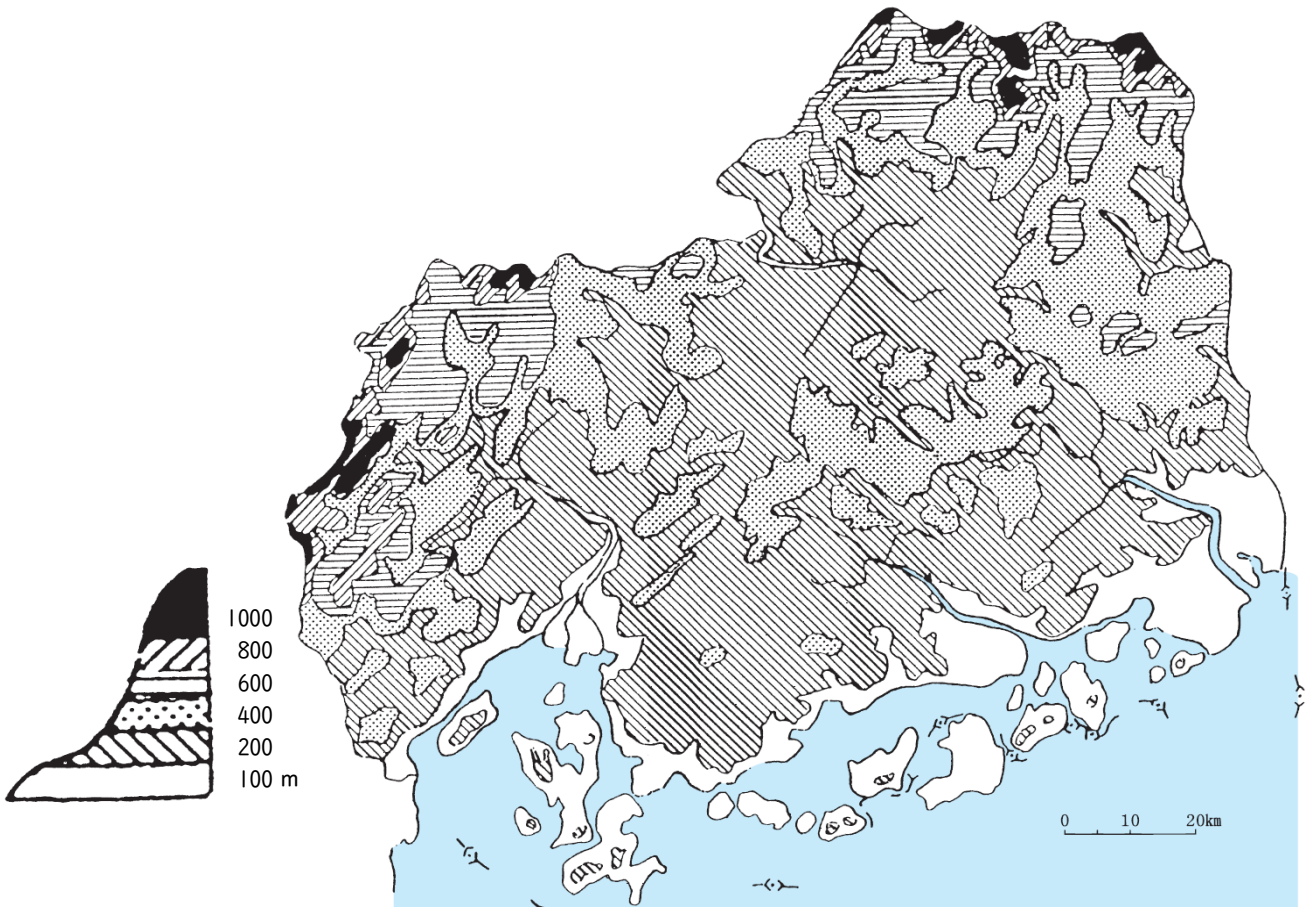
自然・環境

1 広島県の地形や様子

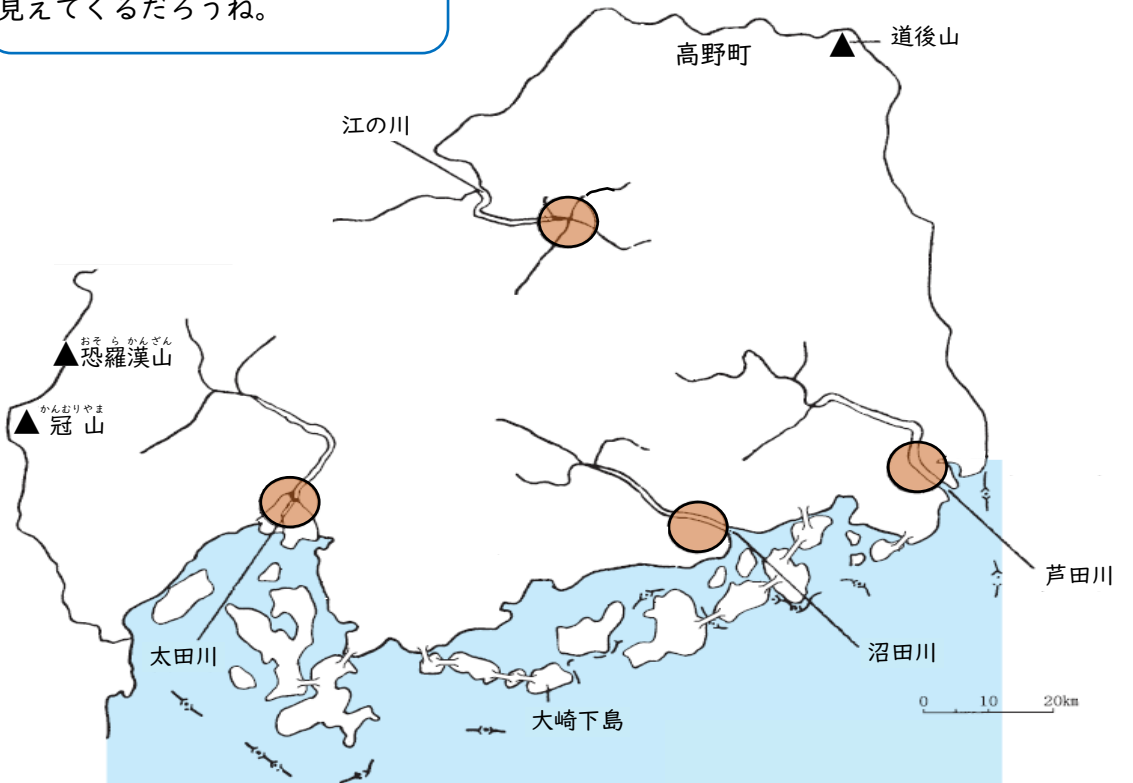
(1) 広島県の地図

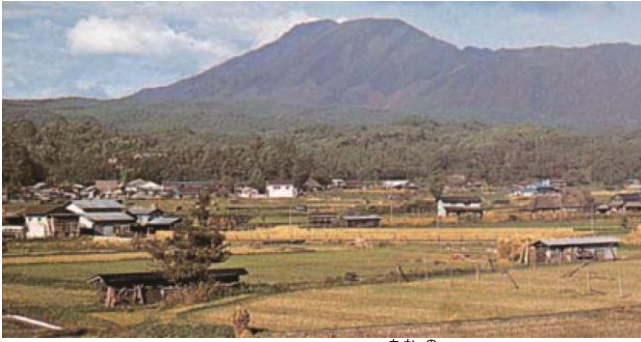


(2) 広島県の土地の様子



2つの地図から、どんなことが
見えてくるだろうね。





〔中国山地（庄原市高野町）^{たかの}〕



〔なし畑（世羅郡世羅町）〕



〔瀬戸内海の島々（呉市豊町）〕



〔三次盆地〕

（3） 広島県の様子

北や西の県境には中国山地が広がり、道後山・冠山^{どうご かんむり}など、高さが1000mを超える山々が連なり、その周りは、なだらかな高原になっています。

太田川・沼田川・芦田川^{おおたがわ ぬまたがわ}の河口には、上流から運ばれた土や砂などによって、平野が広がっています。これらの平野には、広島市・三原市・福山市などの大きなまちができました。

中国山地などの山に囲まれた盆地の中で広いものは、三次盆地と西条盆地です。これらの盆地には、三次市や東広島市など、その地方の中心になるまちが広がっています。

広島県内には、大小約150の島々があり、景色の美しさから国立公園に指定されています。山が海岸近くまでせまっているため、平地が少ししかないのも特徴^{とくちょう}です。

2 福山市と違う土地の暮らし

(1) 庄原市高野町（広島県で一番北の町）

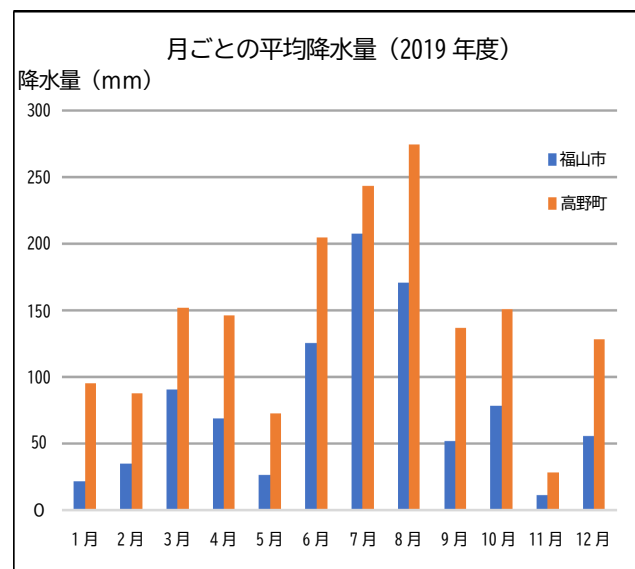
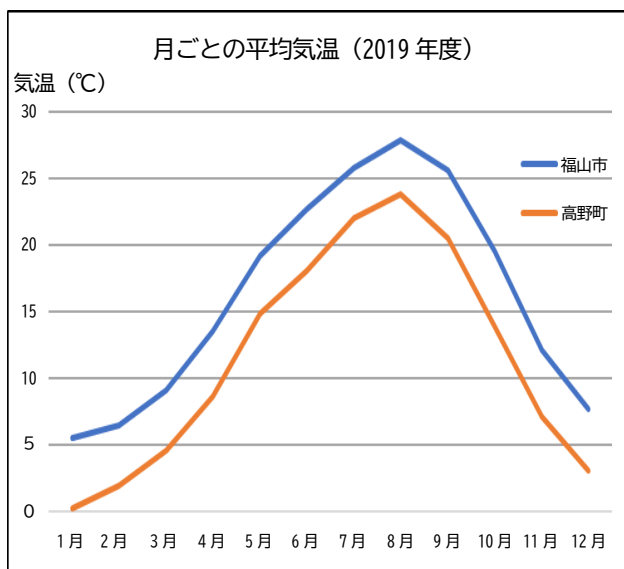


福山での暮らしと比べることで、様々なことが見えてくるね。



ア 土地の様子

広島県の最北の町、庄原市高野町は、中国山地の山あい、高さ500mの所にあります。周りには1000mを超える毛無山などの高い山があります。山地から流れ出る大量の水は、町内の中ほどを流れている神野瀬川かんのせがわに集まり、町の西にある高暮ダムこうぼにたまり、三次盆地へと流れていきます。その後、江の川えのかわと合流し日本海へ流れていきます。土地が高いため、一年間を通じて気温は低いです。内陸部にあるため、夏は昼間と夜の気温の差ちがが大きくなります。また、夏は短く、冬が長いのも特徴です。冬になると雪が50cmから70cmも積もります。多い時には1mを超えることがあります。



〔福山市と高野町の気温と降水量〕

イ 米作り

高野町の川沿いに広がる平地では米作りが盛んです。夏が短く冬が長いので、農家の人は、稲を育てるためにいろいろな工夫をしています。寒さや病気に強く、早く育つ品種を選んで、4月の始めから、電熱育苗器で苗を育てます。その頃から、雪がとけたばかりの田へ、堆肥を入れて、田のあらおこしをします。5月になるとすぐ田植えを始め、9月には稲刈りが始まります。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
米作り	高野町			福山市								
				もみまき		田植え			稲刈り			
大根				じかまき		取り入れ						
りんご	雪から木を守る 土づくり・剪定・ ハチの管理・放飼			消毒・追肥 害虫対策 袋かけ作業			<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> しゅうかく 収穫 しゅっか 出荷 </div>					

〔高野町の農業〕

それぞれの地域で、農業のやり方を工夫しているんだね。



ウ 地域の特徴を生かした農業

(ア) 夏の大根作り

大根は、高野町北部（和南原）を中心に作られています。この辺りの土地は、黒っぽい火山灰土で、深く柔らかい土地です。この土は大根作りに適しています。また、大根は、福山では冬に多く作られますが、高野町では、涼しい夏を利用して、6月から11月にかけて取り入れができるようにしています。高野町は、広島市や呉市、福山市の市場へ、毎日大根を送っています。

(イ) りんご作り

庄原市高野町で作られるりんごは、甘くおいしいと大変人気があります。それは、高野町の気候が、年間を通して涼しく、昼と夜の気温差が大きいからです。りんご農家は、芽を守ったり育ちをよくしたりするための剪定作業や、実を害虫などから守るための袋かけ作業など、様々な工夫をしてりんごを作っています。



〔りんごの木〕



〔出荷前のりんご〕

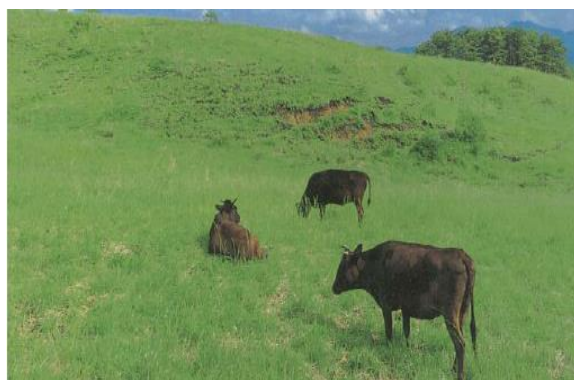
特に気をつかうのは、春にりんごの芽を守ることです。りんごの芽は0度以下になると、そのままではだめになってしまうので、農家の人たちはその時期にスプリンクラーで水をまき、芽を凍らせることで0度以下になることを防ぎます。以前は、石油を燃やして暖かくし、霜などで温度が下がることを防いでいました。その頃の費用は、1ヘクタールの農家一晩で、およそ12万円でした。現在の方法では、およそ1万円です。こうした工夫と努力によって、高野町のリんごは評判のよいものになっているのです。



〔凍ったりんごの木の枝〕

(ウ) 広島牛を育てる

農家では、発育のよい広島牛の親牛を飼って、子牛をふやして三次家畜市場へ送っています。高野町では、1978年（昭和53年）に毛無山に牧場（牛肉センター）を作りました。センターでは、農家の忙しい5月始めから10月の終わりまで農家から牛を預かり、それぞれの牛に合ったえさをあたえて世話をしています。また、お腹に赤ちゃんのいるめす牛を育てて、農家に売る仕事もしています。その他、冬になると、乾燥した牧草を農家に分ける仕事もしています。



〔毛無山ぼく場〕

エ 冬のくらしの工夫

12月の終わりに降った雪は、根雪として残り、さらに3月まで雪がよく降るため、町全体は雪に覆われます。家々の屋根は、降り積もった雪で家が傷まないように「あぶらがわら」や「かわらぼう」にしたり、また、一度に雪が滑り落ちては危険なため、「雪どめ」をつけたりもしています。冬の間は、町の人々は力を合わせて雪下ろしをします。

商店街の道路の片側には、幅70cm、深さ1.2mぐらいの「流雪溝」を作っています。雪下ろしをした雪や道に積もった雪を流雪溝に落とし、ポンプでくみ上げた水でとかして流す仕組みにしているのです。また、「除雪車」が出て、道路に積もったたくさん雪を取り除く作業もします。春から秋にかけて忙しかった農家の人々も、冬は雪のために田や畑での農作業ができにくくなります。そこで、リンゴの木を守ったり、牛の世話をしたり、除雪作業などの仕事をしています。

学校では、子どもたちが、鉄棒まで隠れるほど雪の積もった運動場で、雪合戦などをします。学校から遠い所に住んでいる小・中学生は、スクールバスで通学しています。

最近では毎年「スポーツ雪合戦」の大会が開催され、県内はもとより、近くの県から多くの人たちがチームを組んで参加しています。積雪の多さを利用して、地域を盛り上げようとする工夫もしています。



〔雪どめのあるかわらぼう〕



〔流雪溝〕



〔スポーツ雪合戦の様子〕

(2) 呉市ゆたかまち豊町
(広島県で一番南の町)

ア 島の様子

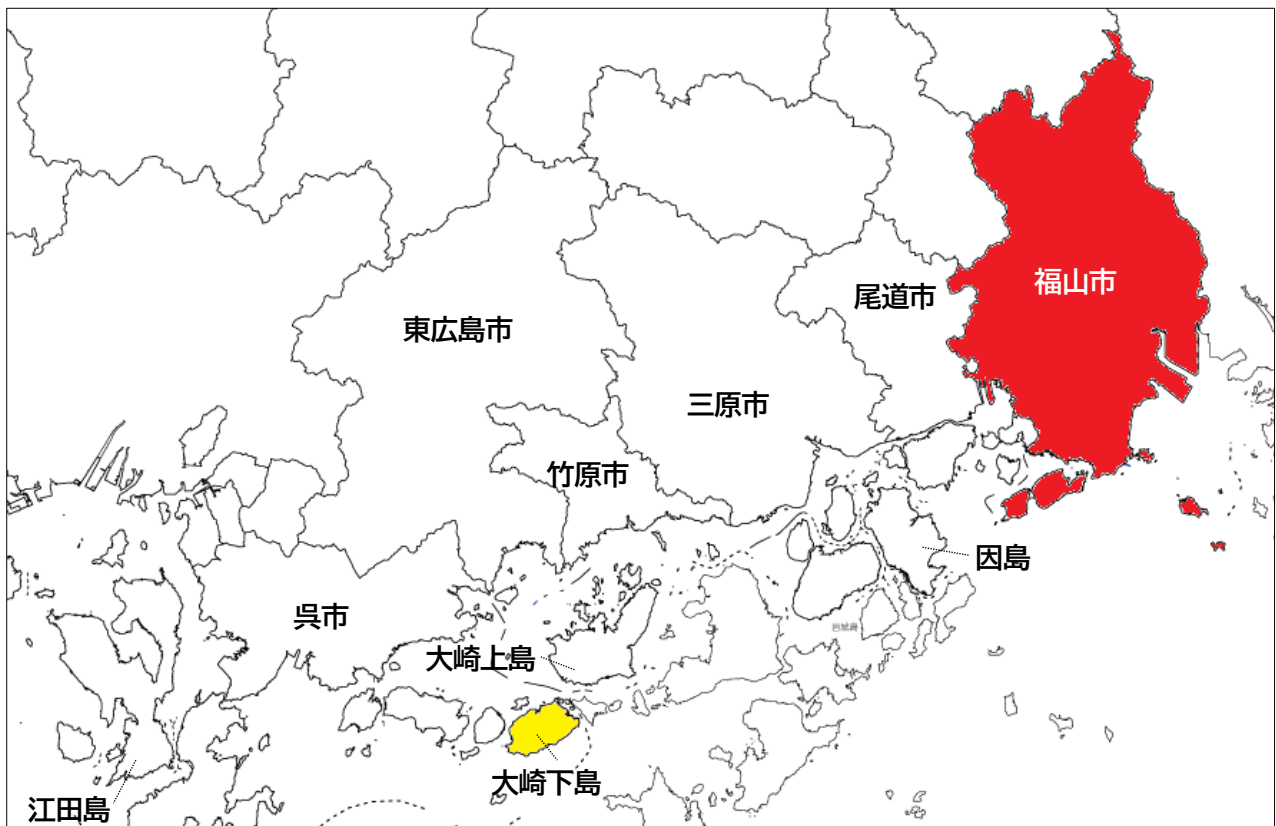
広島県の南に広がる瀬戸内海には、大小多くの島々があります。大崎下島は、瀬戸内海のおおさきしもじまのほぼ中心で、竹原市の南西約20 kmの所にあります。海をへだてて大崎上島かみじまや愛媛県のおかむらじまの岡村島があります。



〔大崎下島のみかん〕

大崎下島には、豊町とよはまちょうと豊浜町があります。豊町は、大崎下島を中心に6つの小さな島を合わせた町で、昔からみかんの産地として有名です。

豊町には、高さ448 mのいっぽうじやま一峰寺山があり、急な斜面が海岸まで延びています。このため、町には川らしい川もなく、平地も少なくなっています。



イ 地域の特徴を生かした農業 —みかん作り—

豊町で作られた温州みかんは、「大長みかん」という名前で知られています。みかん作りの様子について、みかん農家の人にたずねてみました。

農家の人の話



みかん作りには日当たりと水はけが大切です。島は平地が少ないので、山の斜面に段々畑を作ることによって、日当たりと水はけがよくなります。夏にしっかり日光を浴びて、甘くておいしいみかんになります。

昔は、みかんがいっぱいの「しよいこ」を背負って、急な段々畑から里の農家まで運んでいました。今では、山の上の畑まで軽トラックで行けるよう、人々が共同で大きな道を整備したり、ケーブルやモノラックを取り付けたりしたことで、楽にみかんを農道まで出し、トラックで家まで運べるようになりました。時期をみて、家から選果場に持っていき、そこで形・大きさ・甘さなどをより分けて、箱に詰め、まとめて大型トラックに積み、全国に送り出しています。

全国で作られているみかんも、同じような場所や条件で、作られているのかな。



〔モノラック〕



〔選果場の様子〕



〔港につながれた農船〕

農家の人の話



わたしたちは、朝早くから、フェリーボートや農船で他の島までみかんを作りに行っているんだよ。豊町の人は、昔から、まわりの島や愛媛県の島にも土地を買って、みかん作りに出かける『出作』^{てさく}をしているんだよ。

農船というのは、長さ10mぐらいの木造船で、みかんを運ぶのに使っているんだよ。

朝5時前から仕事に出かけ、行くのに1時間以上かかる所もあるし、風や潮の流れの影^{えい}響^{きょう}も受けやすいから、大変な時もあるんだよ。



〔フェリーボートや農船でみかん作りに出かけて行くところ〕

J A（農業協同組合）の人に、おいしいみかんを作るための工夫をたずねました。

J Aの人の話



豊町では、1902年(明治35年)にみかん作りが始まりました。多い時には全国の早生みかんの半分を作るほど、盛んだったんだよ。

しかし、1972年(昭和47年)頃から、他の地域でもみかんの生産量が増えて、値段が下がり、苦勞して作ったみかんを捨ててしまうようなことが起こったんだよ。そのため、生産量を減らし、みかんを日光のよく当たる所に植えたり、摘み取る時期を考えたりして、味や形のよいみかんを作る工夫をしているんだよ。

近頃では、みかんの木のまわりに白いビニールを敷いて、太陽の光を反射させ、いい色がつくようにしたり、雨水があまりしみこまないようにしたりして、甘くておいしいみかんを作る工夫をしているんだよ。

様々な工夫が考えられているんだね。





〔平地にうねを作るみかん作りの様子〕



〔ビニールをしいたみかん作りの様子〕



1990年(平成2年)からは、「ハウス栽培^{さいばい}」も行われ、天候に関係なく、夏に出荷できる甘くておいしいみかんを作る努力もしているよ。

また、「豊^{ゆたか}マンダリン」や「デコポン」など、かおりがよくて甘い、新しい種類のみかんを作る努力もしているんだよ。

特に、全国の1/4の出荷量をもつレモン作りでは、農薬を使う時期を書いたカレンダーを作って、安全のために努力しているんだよ。

働く人の高^{こうれい}齢化によって、畑の近くまで車で入れる農道を作り、みかんや肥料を運びやすくもしているよ。また、機械で甘さを調べて、より甘くておいしいみかんが出荷できるようにしているんだよ。



〔ハウス内のみかん〕



〔段々畑のようす〕



たしかに、手間のかかる大変な仕事だけど、みんながおいしいと言って食べてくれる顔が見たくて、一生懸命^{けんめい}がんばって、みかんを作っているんだよ。

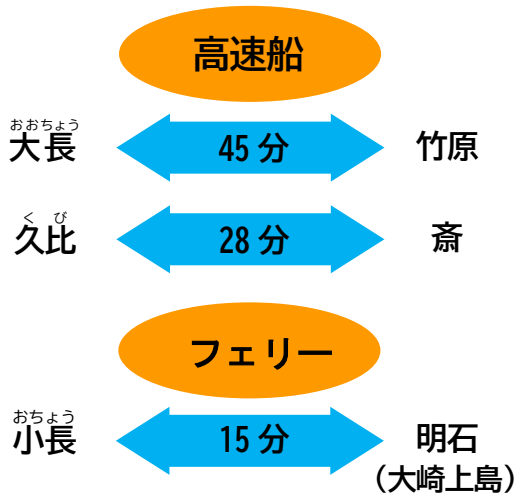
ウ 島の人々の暮らし

役場の人の話



島の人々の生活に欠かせないのが船です。仕事や買い物に行くときや、学校に通うときに使っています。島には、3つの港があり、竹原・川尻・明石・斎・愛媛県の今治などへ高速船やフェリーが出ています。

町は、4つの地区に分かれており、島のまわりを通る県道、農道で結ばれています。大崎上島のさんようバスが、バス路線の延長をして、走っています。幼稚園の子どもや小・中学生も、そのバスを使って学校に通っています。働く人たちの半数以上は、農業で暮らしをたてています。そのほとんどは、みかん作りをしています。その他には、漁業をしたり、島にある工場へ働きに行ったりする人もいます。



〔大崎下島と船で結ばれている町〕



〔港のようす (大長港)〕

島のおばあさんの話



ふだん暮らしにいるものは、島の店で買うんじゃけど、昔は、「渡海船」という船の運送屋さんに頼んで買ってきてもらったんじゃ。

今は、渡海船じゃなくて、トラックで野菜や食料品・日用雑貨品などを配達してもらっとるんよ。自分で、フェリーに乗って買いに行かなくてもいいから、とても助かっとるんよ。



〔渡海船〕

配達をしているおじさんの話



台風の日でも、渡海船で物を運んでいたけれど、船が古くなってね。危ないからやめようと思ったけれど、島の人たちに、「ぜひ続けてくれ。」と言われてね。今では、愛媛県の今治市などで買ってきてトラックで運んでいるんだよ。



〔渡海船にかわるトラック〕

役場の人の話



島の水は、昔はため池や井戸を使っていたんだよ。しかし、雨の少ない時は、水不足で困っていたんだ。それで、1974年(昭和49年)から、まわりの島々と一緒に、広島市の太田川から海底パイプで水を送ってもらうようになって、心配はなくなったよ。電気は、竹原から大崎上島を通して送られてきているんだよ。

1992年(平成4年)には、大崎下島の豊町と豊浜町がある豊島を結ぶ豊浜大橋が完成し、人々の生活も大変便利になったんだよ。

1998年(平成10年)には、大崎下島と愛媛県の岡村島が橋で結ばれたんだよ。そして、2008年(平成20年)には、島に住む人たちの長年の願いであった豊島大橋(愛称「アビ大橋」)が完成して、4つの橋で呉市とつながったんだよ。そのおかげで、時間を気にせず、安心して島から出たり帰ったりできるようになったんだよ。



〔岡村島への橋〕



〔豊島大橋(愛称「アビ大橋」)〕

島の人々の生活は、多くの人の努力に支えられているんだね。



役場の人の話



島のくらしも便利になってきたけれど、1955年(昭和30年)頃には、9000人ほどいた人たちも、若い人たちが他の町で働くために島を離れるようになり、今では約2100人(2015年(平成27年現在)ほどに減ったんだよ。そのうちの半数以上が、65才以上のお年寄りなんだよ。

そこで、近頃では、島の若い人たちが中心になって、産業文化祭などを開いたり、マーマレードなど、みかんを使った特産品を作ったりして、町おこしをしているんだよ。町をよくするために、いろいろな使い方のできる公民館を作ったり、港を大きく作り直したり、農道を整えたりもしているんだよ。

また、1989年(平成元年)から、YCN(豊町ケーブルネットワーク)というテレビ局を作り、島のくらしに大切な情報を全部の家に届けているんだ。現在は、2010年に統合され、呉市有線テレビジョン放送施設になっているんだよ。



〔産業文化祭の様子〕



〔YCN(豊町ケーブルネットワーク)〕